

平成28年度学校評価報告書

平成29年3月24日

苫小牧市教育委員会教育長 様

苫小牧市立北光小学校長

鈴木 照 史



次のとおり平成28年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 豊かな心と健やかな体の育成

- ・道徳教育の充実
- ・生徒指導の充実
- ・基本的生活習慣の定着
- ・体力の向上

(2) 基礎資本の定着と社会で生きる実践的な力の育成

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着
- ・校内研修の改善・充実
- ・家庭学習の定着
- ・読書活動の奨励

(3) 家庭地域との連携・協働・信頼される学校づくり

- ・家庭と連携した生活習慣の定着
- ・開かれた学校づくりの推進

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
道徳教育の充実	達成状況 3.04 (4点中) 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じ、道徳性や道徳的実践力の育成に努めている。今年度は道徳教育推進教師による全学級の道徳授業参観、道徳示範授業の実施により教師個々の道徳の授業力の向上を図ってきた。	道徳教育については、子どもと保護者のアンケート結果でも意識の差が見られる。学校の道徳の授業を中心に、家庭や地域への啓蒙を行い、子どもが自分の行動をしっかりと振り返ることが大切である。地域としても「雪山に登らない」など、適宜指導を行っている。
改善方策	全学級での授業参観公開。子どもの心に響く教材の選択等、道徳授業の改善。「特別の教科 道徳」の実施に向けた研修の実施。	すべての教育活動を通じて、人間としてよりよく生きるための道徳的実践力を育んでほしい。
生徒指導の充実	達成状況 3.13 (4点中) 集団生活のルールやマナーの徹底を図り、学校事故の防止、規範意識の高揚に努めている、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応を心がけ、児童会を中心にいじめ防止に向けた全校的な取組を行うとともに、今年度は啓北中生徒会と北光小児童会合同の挨拶運動も初めて実施できた。 今後も児童理解のため生徒指導体制及び教育相談体制の充実を図り、日頃の観察を怠らず、人間関係の把握に努めることが重要である。	いじめ防止に関する児童アンケートでは「3.33 (4点中)」という高い評価であるが、「評定1」の子は4名おり、悩み相談に関する児童アンケートでも、47名の児童が「評定1」に○をつけている。このような子たちの声に先生方はぜひ耳を傾けてもらいたい。また、不登校児童や保護者の養育能力に課題のある家庭の指導で児童委員や民生委員の助力の必要性があれば声をかけていただきたい。
改善方策	生活のきまりの徹底。教育相談記録の有効活用と共有化。いじめ・不登校対策委員会の定例化(月1回)と早期発見・早期対応の徹底。	後半は特に1, 2年生のあいさつがよくなった。全体的に子どもたちの挨拶が去年より良くなっている。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
体力の向上	達成状況 3.29 (4点中) 体力向上に向けた授業改善に取り組むとともに、全校で取り組むマラソン・なわとびの運動を行っている。課題の投てき能力改善に新しい企画も公務補の協力で用意できた。	少年団も子どもが減り、どの種目も単独チームづくりが困難になる中、学校で全校的にマラソンやなわとび等に取り組むことは大変重要と思う。5年生が新体力テストの多くの種目で全国平均を上回ったことも快挙である。
改善方策	投てき能力向上のための取組。日常的に運動のできる場の設定。運動プログラムの実施。	今後も体力向上に関わる活動を展開し、児童の体力向上を目指してほしい。
基礎的・基本的な知識・技能の定着	達成状況 3.04 (4点中) 算数科におけるTT指導と少人数指導の充実については担当教員と学級担任、補助のフリー教員と連携しながら単元毎に指導形態や指導内容を協議し実施してきた。少人数指導は指導者の授業力の差が端的に表れることから、指導力の統一が求められる。 朝活動や長期休業中のぐんぐんタイムの充実、学習規律の徹底、ノート指導や板書を大切に授業改善についてはさらに統一を図り、研修課題の「書く能力」の向上についても、標準学力検査の領域別結果分析からも一定の成果が得られたものとする。	児童の実態に合わせ、学校組織としてより効率的・効果的に授業改善に取り組み、「書く能力」の向上を図ってきた様子がよく理解できた。 今年度の標準学力検査の結果から、全国学力・学習状況調査も来年度の6年生には「全国平均超え」を期待している。 実物投影機など、昔はなかった指導ツールを全学級に整備し、指導の工夫を図っていることも確認できた。 今後は全学級で「当たり前」の学習規律を徹底していただくよう望んでいる。
改善方策	ノート指導や学習規律は、中学校区エリア内の近隣小中学校で連携し、徹底を図っている。TTより習熟度の授業時数を増加。全員公開授業の継続。授業改善では、「書く力の指導の継続」を目指し、他教科・他領域においても積極的に実践していく。	今後も基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指し、わかる授業・のびす授業づくりを推進し、児童の学ぶ意欲を引き出し、「何を学ぶか」から「どう学ぶか」という、主体的な学習への指導方法の工夫や授業改善を図ってほしい。
校内研修の改善・充実	達成状況 3.04 (4点中) 4年間にわたる「書く能力」の校内研究を通じ、作文の力や作文を互いに読み合い推敲してさらに改善する力を育ててきた。	参観日の授業で「先生方がとてもいいねいに教えている」のがよくわかった。 児童用パソコンは40台整備とのことだが、パソコンの学習は今後益々重要になるのでしっかりとお願いしたい。
改善方策	平成29年度からは2年計画で「道徳」の校内研修を行うが、国語科「書く力」の指導も継続していく。	家読や家庭学習の習慣化は、家庭との連携が重要であり、意欲付けや方法は学校で指導できるが、実践は家庭になるので粘り強い働きかけが必要。
家庭学習の定着	達成状況 2.75 (4点中) 年間3度のがんばり週間の設定等、家庭学習の定着と家庭学習の内容の充実を図っているが、定着まで未だ課題が残っている。	習い事や少年団活動で大変な子どもも多く、家庭学習とのバランスは配慮が必要ではないか。
改善方策	年度初めに改めて家庭での『学習のしかた』について指導し、家庭学習がなぜ必要なのかの意義をしっかりと子どもに伝えていく。	家で学習できない家庭環境の子どもへの個別の支援もお願いしたい。
読書活動の奨励	達成状況 3.22 (4点中) 登校後や給食時間等の読書の推進を行っている。今年度から学校司書が配置され、保護者の図書ボランティアとも連携し、図書室の環境整備を行っている。	学校司書の配置は大変有意義と考える。新設の町内会館に児童書100冊を設置したが、訪れる子どもたちは大変熱心に読んでおり、読書習慣の定着が進んでいると思われる。
改善方策	朝読書の充実、多読・家読の推進。読書の大切さについての啓発。	さらに読書活動の充実や、蔵書数の拡充に努めてほしい。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
家庭と連携した基本的な生活習慣の定着	<p>達成状況 3.41 (4点中)</p> <p>年2回の生活実態調査を実施し、結果を家庭に知らせることで基本的な生活習慣の重要性を啓発するという点では、一定の効果が得られたと言える。</p> <p>「早寝・早起き・朝ご飯」等の生活リズムが堅持できない家庭もあるが、学校や家庭・地域が連携し、啓発することで指導に努める。</p>	<p>生活実態調査は、年度内の経年変化比較を行っているとのことだが、課題のある家庭への指導も難しいと思うがよろしくお願ひしたい。</p>
改善方策	<p>児童の実態把握と支援のあり方。指導計画の活用。指導方法の研修。保護者への情報発信。</p>	<p>次年度も生活実態調査、がんばり週間の取組を継続してほしい。</p>
開かれた学校づくりの推進	<p>達成状況 3.36 (4点中)</p> <p>学校通信、学校HP、緊急時の一斉配信メール等の配付による教育活動の発信を行っている。</p> <p>地域施設の見学や地域人材による出前授業等、積極的な活用が行われている。保護者アンケート結果が低いのは情報発信がまだ不足か伝え方の工夫に課題があると考えている。</p> <p>各種学力調査や新体力テスト、チャレンジテスト等についても、分析結果から授業改善までの流れを迅速に行っていきたい。</p>	<p>学力や体力の向上を目指すと同時に、子ども・地域・保護者の相互理解を今後も大切に、さらに開かれた温もりのある学校づくりに努め、地域から信頼される学校を目指してほしい。</p> <p>地域の教育力活用を通して、地域との交流活動もさらに推進してほしい。</p>
改善方策	<p>学校HPの活用と充実。「たんぼぼ畑」や「花いっぱい運動」等、地域とのつながりによる活動の継続。学力調査や学校評価等の確かな情報発信とその解決策の提示。</p>	<p>今後もあらゆる機会を通して、教育活動の情報発信をできるだけ多く行ってほしい。</p>
公表方法	<p>学校だより配付及び学校HP掲載</p>	<p>学校HP掲載</p>

3 添付資料

- ①学校関係者評価委員会 会議資料
- ②教育評価3種アンケート(保護者・児童・教職員)と集計結果
- ③学校だより2月号(保護者・地域への公表資料)